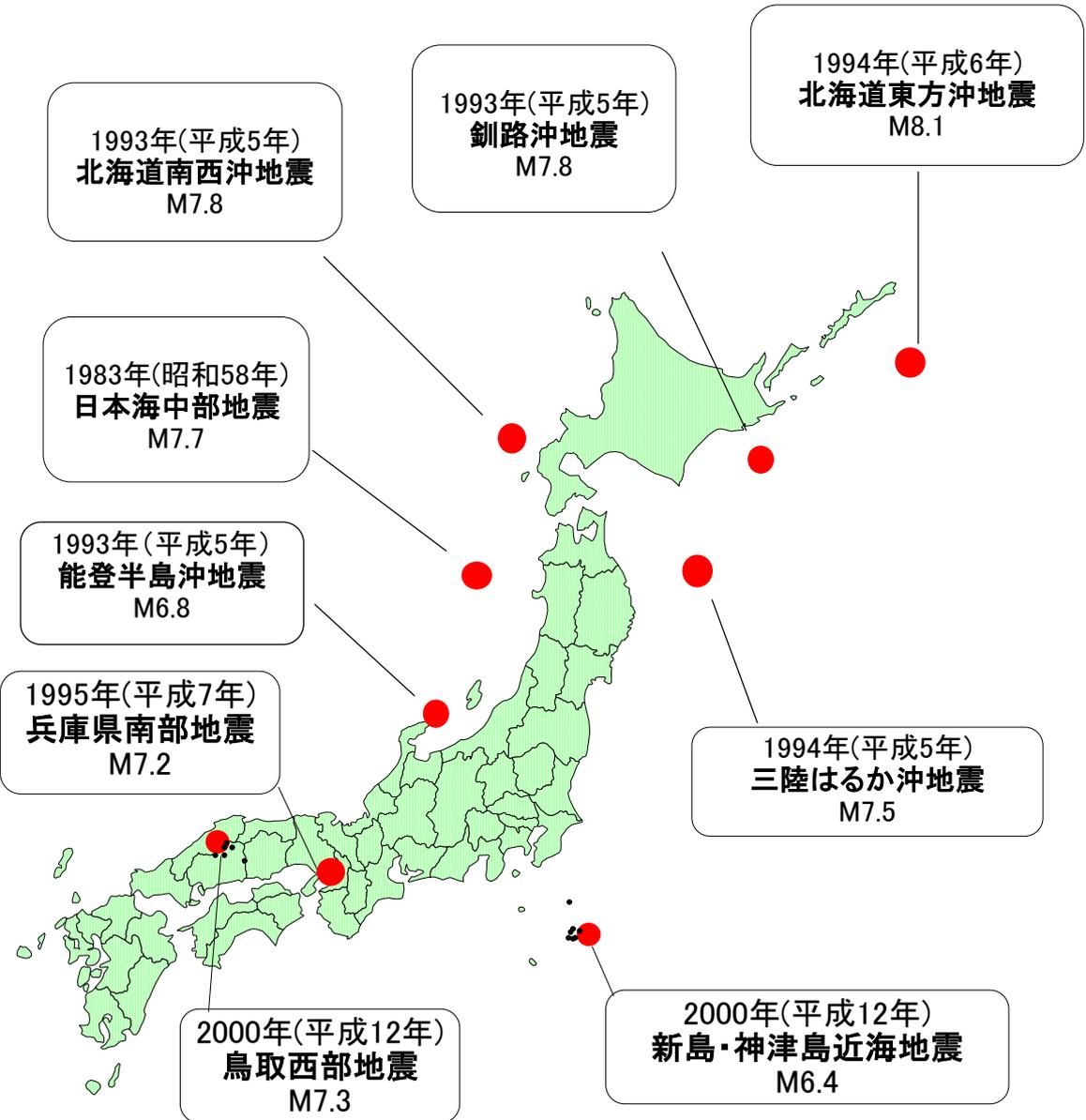


テールアルメ工法 信頼性の検証(地震による被災調査) (川鉄商事株式会社)



発生年	月日	地震名称	テールアルメ壁の被災状況調査概要及び被災状況	
1983年	5月26日	昭和58年日本海中部地震 秋田沖 M7.7	49カ所を調査。	損傷なし
1984年	9月14日	昭和59年長野県西部地震 長野県西部 M6.8		特になし
1987年	3月18日	日向灘地震 日向灘 M6.6		特になし
1987年	12月17日	千葉県東方沖地震 千葉県東方沖 M6.7		特になし
1993年	2月7日	能登半島沖地震 能登半島沖 M6.8	大規模で壁高さの高い壁5カ所を調査。	損傷なし
1993年	1月15日	平成5年釧路沖地震 釧路沖 M7.8		特になし
1993年	7月12日	平成5年北海道南西沖地震 北海道南西沖 M7.8	渡島半島で13カ所の内、奥尻島に近く、道路被害が集中している地域の5カ所を調査。	橋梁取付部で若干の沈下を確認するも、大きな被害は無し。
1994年	10月4日	平成6年北海道東方沖地震 北海道東方 M8.1	震度5(強震)以上の揺れを観測した地域を中心に、20カ所の壁を調査。	すべての構造物で健全性を確認。 高さ15mの高壁高盛土や、延長800mの長大テールアルメにも震度6及び震度5の地震の影響がほとんど見られない。
1994年	12月28日	平成6年三陸はるか沖地震 岩手県沖 M7.5	震度6(烈震)を観測した青森県八戸市近郊の5カ所を調査。	壁高さ4.5m~12.75m、被災なし。 壁高さ12mのダム付替え道路に施工されたテールアルメ壁は、基礎フーチングに傾斜計を取付けており、地震時の変位は観測されていない。
1995年	1月17日	平成7年兵庫県南部地震 兵庫県淡路島北部 M7.2	近畿地区812件(当時)の内、震源から40km圏内124カ所を調査(協会)。震度7(激震)地域に位置する壁も数カ所存在。	震源から2km(震度7)に施工された壁には、大きな変位は生じていない。 114カ所は異常なし。 10カ所は壁面材の軽微な損傷、あるいは変位が確認されたものの、健全である。
2000年	7月1日~ 8月18日	新島・神津島近海地震 M6.4	神津島周辺で震度6弱程度の地震が短期間に、群発発生。 神津島島内で施工中1カ所を含む9ヶ所及び伊豆大島島内で1箇所を調査	すべての構造物で健全性を確認。 震度5から6の振動が繰り返したもののテールアルメに損傷は見られない。
2000年	10月6日	鳥取西部地震 M7.3	米子市から日野町付近の震源地周辺の6箇所を調査。	複合橋台が地震を受けた例としては本件がはじめて。 調査した6ヶ所とも健全であり、損傷は見られない。